

日浦地区タウンミーティング(要約)

平成26年1月12日(日曜日)

【市長】 皆様こんにちは。今日は3連休の中日になり、また今日は市内各地で成人式が行われておりますけれども、今日はこのタウンミーティングの受け入れにお力添えいただきました日浦地区広報委員会の会長をはじめ、役員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。このタウンミーティングですけれども2巡目に入っております。私就任させていただいてから始めさせていただいたもので、松山市は旧の北条市と旧の中島町合わせて41地区に分かれます。市役所で待っているのではなくて我々のほうから41地区に出向かせていただく。そして皆様の声を聞かせていただく。それは各地区には魅力があって、また逆に各地区にはそれぞれお困りの点とか課題もあると思いますので、それを教えていただくということで始めさせていただきました。そしてすぐさま行政に反映できることから反映をしようということでございます。パフォーマンスとかいわゆるガス抜きだったら1巡で終わっていたと思いますけれども、私は本気です。とにかく皆様の声を生かしていきたいという思いでございまして、それは聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにはしないというところにもあらわれます。ここで皆さんからご質問いただいたことに対しては、できるだけこの場でお答えをいたします。例えば国と絡むもの県と絡むもの、また財政的な問題があるものなどはいったん持ち帰らせていただいて、そして1カ月を目途に皆様に地元へ答えを返すことをやっております。この後、私から前回どのような質問をいただいて、そしてどのように対応をさせていただいたかを述べさせていただきます。また先ほど課題、お困りの点等あわせて魅力と申し上げましたけれども、なぜ魅力について1巡目で教えていただいたかということ、行政がそれぞれの地区の魅力を一番わかっているんじゃないかと、それぞれの地区の魅力はその地区にお住まいの方が一番よくおわかりだと思います。行政がまちづくりを押しつけるのではなくて、地元の方のまちづくりをサポートできると一番いいまちづくりができるのではないかと。そして、その41地区の集まりである松山市はそうなるともっと輝くのではないかとということで、1巡目に魅力を教えていただきました。魅力というと私、実は市長の立場をいただいてから来てたくてもなかなか来れていないところがあります。それは実はお盆の川施餓鬼なんですね。私前の仕事のとときに集会所だったと思います。集会所で川施餓鬼に使うのぼりを見せていただいて、立派な絵だなど、そして大きいな、そして川を上がることの難しさも教えていただいて、市長になって

も行きたいんですけど、なかなかお盆で行事が重なってしまっていていけないのがとても心残りなんですけども、また、お杖椿だったり棚田の風景も忘れることができません。今日は予定90分間ですけども、やっぱり肩ひじ張っているとさすがに疲れてしまいますので、あまり肩ひじ張らずにざくばらんな話し合い、意見交換ができればと思います。今日はどうぞよろしく願いいたします。

【男性】 広報委員会の会長をしております。日浦生活改善センターの整備についてですが、この中に意見と要望を述べさせていただきました。本来ならこの地区におけるコミュニティセンターの設立をお願いしたいところですが、費用対効果や人口の減少等により予算の面がありますから、なかなか難しいかと思えます。ただ現在ここ使っております改善センターは、道路面から入る場合に南側の2階の入り口、あるいは正面から入る下の入り口、ここに上がってくるまでには階段を利用しなきゃなりません。今地域では非常に高齢化進んでおりますし、車いすや足の悪い方等々多く見受けられます。そんな中で、このセンターを維持していくために、平成19年度に一度耐震工事をかけております。その関係もありまして全体をリフォームするのは難しいかと思えますので、こちらの2階に皆様方が座ってらっしゃる後ろ側に入出口がついているんですけど、駐車場側方面に向かってループをつくっていただいたら、そういった足の悪い方等も利用しやすいということも伺えるので、できれば南側に面するこの駐車場側から勾配の少ないループ状のような入口を設けていただけないかという要望をさせていただきたいと思えます。これについてご検討をお願いいたします。

【生涯学習政策課長】 教育委員会生涯学習政策課の津田と申します。よろしく願いいたします。ご質問いただきました日浦生活改善センターは、日浦公民館ともなっておりますので、私から答えさせていただきます。私も今階段を利用して部屋へ入ってきたんですけど、やはりこの階段はきついなと十分実感しているところです。このご意見いただいておりますものですから、担当課の学習施設課が事前に調べました。これは計算上の話でしかないんですけども、もしこの目の前の国道からスロープを単純につけるのであれば、20メートルぐらいの長さがないと厳しいのかなと。敷地の中からやりますと、その倍の44メートル近くないと、勾配、斜度がかなり急になっちゃうということで、現在の工法でスロープをつけるには現実的ではない距離感です。勾配をつけるにあたってそのときに敷地の問題もあるんですけども、45メートルはなかったと思うんです。らせんでするとかなり距離はでますけれども、その部分の下をどう使うかもありま

すので、もう少し研究させていただければと思います。単純にスロープ1本一直線でやりますと、道路から約20メートル後ろから勾配をつけてこの2階へつなぐと。敷地内だったら44メートルぐらいは絶対いるというのが工法上の計算の長さです。あとは研究してらせん状にしていくのがいいのか、公民館の耐震は教育委員会がやっているんですけども、それが終わった段階で例えば簡易なエレベーターを考えるのか、そういうところで研究させてもらえればと思います。すみません。

【市長】 何か方法がないのか研究をさせていただいたらと思います。高齢化社会になってきていますので、やはりお年を召された方が行きにくいのではちょっと具合が悪いと思いますので、何か方法がないか研究をさせていただいたらと思います。

【男性】 森林関係のほうでやっておりますが、松山市で今、竹林改善はやっていただいております。北条や下のほうで今のところおかげさまでやらしていただいて、北条のほうは森林組合が解散というようなことで大変心配しておりましたが、おかげで松山市の事業、国のも入れますと同時にあわせてやりまして、500町歩ほどできました。それで組合員さんも入っていただくようなこともできましたし、理事さんそして総代さんつながりも少しずつできてきております。今後ともまだこれからやらなければいけない事業はたくさんありますし、竹の放置林もこれもまだ10年続けてもまだ十分にできる状態じゃないという感じをしておりますので、予算的な問題もありましょうが、ぜひとも続けていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをしたいと思っております。一つだけまたお願いをしたらと思うのは、林道関係が今までは各愛護班的な管理等をしておりましたが、もう今大変高齢化と。今の山の木材事情が低迷しており、山へ入っていかないと。大変林道が荒れてきておると。これの方向性を少し考えていただけたらと思っておりますので、お願いしたいと思っております。

【市長】 日浦地区は、松山市は非常に公益的価値の高い地区と思っております。それはちょっと堅い言葉になりますけど、やはり水は非常に大事なものですので、この石手川の水を守る取り組み、安定した水質の確保がありますから、日浦地区は松山市にとって公益的価値の高い地区だと考えています。ですから自然環境の保全とか、上流と下流地域の交流の促進とか、特色ある魅力的な学校づくりとか、かん養林整備とか水源保全対策とか、さまざまこれからもやっていきたいと思っております。またホテルの保全活動などもいい取り組みだと思いますし、ちょっと先ほど森林整備について国からはちょっと厳しくなったので場所が限られることになったんですけども、松山市独自の事業としてまたやっていきますとお話をさせていた

できました。確かに限られた財政で厳しくはあるんですけども、できる限りやっていきたいと思っています。ちょっと思いつきぐらいの話なんですけれども、以前の仕事で各地、愛媛県とか四国とか中国・四国・九州のいいまちづくりをいろいろ見させていただいて、きれいな水のところで冷涼な涼しいところに行くと、わさびの生産をされているところがあったりするんですね。日本そばとかには欠かせない、お刺身にも欠かせないということで、わさびの生産をまちをあげてやっていたりするところあるんですけど、日浦ではわさびはつくられてる方おいでるんですか。あんまり聞かれたことはないですか。わさびつくってください、やってくださいという話ではないんですけども、そういうまちづくりもあったなと思いながら今日車で来ていたんです。ほんとにそのような公益的価値の高い地区だと思っています。

【都市ブランド戦略課長】 産業経済部都市ブランド戦略課の矢野と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。まず林道の管理の問題でございますけれども、ご案内のとおり、こちらの当地におきましては、現在林道は水ヶ峠線とかコヤケ谷線は国の補助を得まして、松山市として対応させていただいています。それから北谷線は県の補助を受けて事業を施工させていただいていますし、梅木線は市の単独事業として実施をさせていただいています。先ほど申し上げました国費事業でやっています水ヶ峠線は、計画延長が3,934メートルあるんですけども、25年度末になりますと、計画延長の残り700メートルを残すところまでやっとなりまりました。もう少しというところになります。それからコヤケ谷線は平成25年度末の予定としては、計画延長が1,160メートルありますけれども、約160メートルを残すあまりになってくると。そしてこれらについては国の補助の獲得に努めて、できるだけ早急に開設ができるように努めていきたいと考えています。それから県単事業の北谷線については、一部未舗装が残りますけれども、計画延長2,800メートルがこの25年度で全部完了し、開設できる状況になります。それから梅木線については24年度末までに3,300メートルが開設をされましたけれども、残り延長がまだ約1,000メートル残っているという形になります。今年度25年度は測量設計を行っているところでありまして、こうした取り組みをはじめ、そのほかの現状開設している林道等についても、林道や支線についてもできるだけ森林組合の会長さんからもいろいろご意見をいただきながら可能な限り対応していきたいと考えています。それから先ほど会長さんおっしゃられた放置林の対策もございまして、それについて継続というお話がございましたけれども、これについても、先ほど市長からも国

からはなかなか難しくなってきた状況でありますけれども、松山市においてはこれらについて水源地域であるという特性もありまして、公益的な機能を重要視して、水源林の総合整備事業ということで一つにはこちらの地域は杉、ヒノキの人工林の間伐をさせていただいていることはご案内のとおりだと思います。それから侵入竹の伐採についてもやらせていただくと。それからこの流域以外では先ほどおっしゃられました北条では緑のダムの事業で、緑のダムの緊急整備をさせていただいていると。それからこちらの地域にはさらに新たな水源かん養林事業ということで特に広葉樹への植えかえなど樹種の変転換なども実施をさせていただいているというところがございますので、これらできる限りのことを今後もさせていただきたいと思っております。

【女性】 お世話になっております。独居高齢者の安否確認のための愛の一声運動の件ですが、日浦は最近5、6年前から愛の一声運動の中に入りました。そして利用させていただいてます。でも日浦の中にも川の郷町、米野町、大井野町は申請しましたが、申請が通らなくてだめでした。ほかのところの藤野と河中はオクケーなんですけど、どうして申請が却下されたんかなと思うことと、こういう小さい集落やから、色んなところに独居高齢者がいらっしゃるんで、再々見守りも民生委員も回って様子を伺ってはいるんですが、どうして却下になったかということが知りたいんです。そしてできれば却下じゃなくて、日浦全体にその愛の一声運動が平等に回ってきてくれたらいいのになあと思う気持ちで質問します。

【市長】 よくわかります。どうして却下になったんですか。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課高橋です。よろしく申し上げます。独居高齢者の安否確認は、今お話があったような愛の一声訪問事業のほか、民生委員さんの協力を得て独居高齢者みまもり員が定期的に自宅を訪問し、声かけをするなどの独居高齢者みまもり員制度とか緊急通報装置の設置であったり、配食サービス事業などを実施しております。それと最近孤立死が社会問題になってきていることもありまして、地域での見守りを強化するために24年9月に松山市見守りネットワークを構築しました。その内容については、金融機関、銀行であったり電気・ガスなどの事業者が地域を回る機会が多いと思うんですが、地域を回った中で例えば数日間新聞や郵便物がたまっているとか、電気やガスの使用量が極端に少ないとか、そういうことに気づいたら、その情報を市役所とか社会福祉協議会に連絡していただきまして、職員が地域の民生児童委員の協力ももらいながら現地に赴いて対応することにしております。いわゆる地域と民間企業と行政が一体となった見守り体制の強化にも努めております。それでなぜ却下に

なったかということですが、現在配達員の確保とか配達時間の関係で確かに配達できていない地区があります。今後、松山市社会福祉協議会とか民生児童委員とか地域の福祉関係者などと愛の一声訪問事業の対象地域の拡大を含めまして、安否確認とか見守り体制の強化についても総合的に検討していきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

【市長】 経緯について改めて確認をいたしまして、当時の経緯について改めて確認をいたしまして、1カ月を目途に必ずお伝えをいたします。私から言葉を添えさせてもらって。皆さんも気遣いながら言ってくさっているんですが、厳しい財政という話です。松山市は中四国の中でも健全財政と言われているんですけども、なかなか厳しい松山市の懐具合を見せていただいて、北海道の夕張のようにたちまちどうこうなるものではないんですけども、油断はできない状況と私は感じております。地方交付税交付金とか国庫支出金という形で国から地方にお金が回ってくるんですが、この国自体がよく皆さん聞かれると思います、1千兆円の借金を抱えていると言われてます。日本の人口は1億人ですから、1千兆円割る1億人とする、一人あたりどれぐらいの借金を抱えているかが推測できるかと思いますが、仕送りと一緒に。大もとがしんどいんですから、これから仕送りが増えるとはとても考えにくいですね。そしてこれは昔の高度経済成長の時代だったらまたやり方違うと思うんですけど、高度経済成長、人口も増えていく、皆さん、私は税金払いとうてたまらんのじゃという人はおそらくいないと思います。でも、税金はまちづくりのエネルギーなんですね。例えばわかりやすくごみ収集でいうと、ごみを皆さん出される、そのごみを回収するにもごみを回収する人が要りますね。人件費が要ります。そしてごみ収集をしようと思ったら、ごみ収集車が要りますけれども、ごみ収集の車も必要になりますね。ごみは一般的には燃やすわけですから、ごみ焼却施設が要ります。何のお金でやっているかという税金でやらせていただいているわけですね。この税金というのは、まちづくりのエネルギーになるわけです。税金払いとうてたまらんいう人は、なかなかいないと思いますけれども、税金は必要なものなんですよね。よく言われる子どもの数が少ない、少子ですけども、少子は何を意味するかという、働いて税金を納めてくれる方が少なくなっていますということです。それで高齢化ですから、いずれは今の日本をつくってくださってお疲れ様でしたということで退職をされる。体が悪くなっていくこともあると思いますけれども、子どもたち、若い世代に支えてもらう形になります。働いてくれる人の数が少なくなると、高齢の方が増えていく。また、どこの自治体もそうだと思いますけれども、昔建てた建物が古くなってきて、それをケア、

お世話せないかん時期にもなっているわけです。そういった必要なお金は要ることから、私もタウンミーティングやっています、皆さんから「これやってください、あれやってください、市長これやってください」と要望を出していただく。それは遠慮なく言ってほしいんですけれども、私も人間ですから「わかりました、それやりましょう、これやりましょう、あれやりましょう」って言えたほうが楽なんですけれども、考えずにそれをやってしまうと将来の子どもや孫にツケを残すことになってしまう。だからしっかりと皆さんの声に耳を傾けさせていただいて、やるべきことはやる、でも中には申しわけないですけれどもやれないこと、ちょっと後回しになってしまうこともあるんだというのをご理解いただいたらと思っています。とにかく、いい松山市を将来の世代に残していきたいと思っていますので、ご理解いただければ幸いです。それでは何か質問などありましたら。今日せっかく6名の職員が来ておりますので、それぞれ担当分野の仕事を言うと、それだったらちょっと聞いてみたいみたいなことがあるかもしれませんので、順に担当の仕事をお伝え願えますか。

【市民部長】 市民部の吉野と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。市民部は、このタウンミーティングを所管しておりますタウンミーティング課とかいろいろありますが、主には窓口での市民サービスをやっております。市民課とか支所とか出張所、サービスセンター。それと市民相談課がありまして、皆さんの色んな相談をお受けしているところがあります。それと市民参画まちづくり課でやっております、地域における住民主体のまちづくりということで、住民の皆さんから色んなまちづくりの提言をしていただいたり、こんなふうにしたらまちがよくなるんじゃないかということ、色んな行政に対しての要望とかも含めてやっているところがあります。それと人権啓発課がございまして、色んな人権問題についての啓発をしたり事業を進めております。市役所の中では市民に接することの多い、一番身近な部署だと思っていますので、今後ともよろしくお願ひしたらと思います。

【都市ブランド戦略課長】 産業経済部都市ブランド戦略課の矢野と申します。産業経済部には産業経済の関係ともう一つ農林水産担当部がございます。農林水産は、先ほどご質問いただきましたように森林対策をはじめ、農林水産関係そして林道とか一般土地改良とか農道とかを整備する農林土木課の関係、そして水産市場それから生花市場などの市場関係を担当させていただいています。それからもう一つ、産業経済部側に都市ブランド戦略課という松山の認知度を全国に広げていこうと、全国の方に知っていただきたいということで、対策を講じようということで3年目の課になり

ますけれども、そちらの担当をしております。最近ですと、ご覧いただけただかどうかわかりませんが、松山市の認知度を高めるために松山発のオリジナルアニメーション「マッツとヤンマとモブリさん」というアニメーションを制作いたしまして、全国の方に見ていただいたりしています。それから地域経済の関係、中央商店街とか商店街振興対策とかそれから中小企業への支援、そして雇用対策を実施いたしております。それから観光対策で瀬戸内松山構想の関係とか台湾との関係の国際交流の関係、そういったものも担当させていただいておりますし、道後温泉の関係、競輪事業についても私どもの担当でございます。

【都市政策課長】 都市整備部都市政策課の松本と申します。都市整備部では都市政策課含めて12課ございます。道路建設、道路をつくったり、そのつくった道路を管理する道路管理課、バスや路面電車そういう公共交通機関を担当している総合交通課、JR松山駅の整備を担当している松山駅周辺整備課、公園等の公園緑地課とかもございます。現在、道路でいいますと大きい道路では松山インターチェンジから松山空港を結ぶための松山外環状線という道路を、道路建設課が国と県と協力しまして建設を行っております。

【市長】 いったん止めましょうか。私らばかりがずっと長くしゃべってもいけませんから、いったん止めますけれども、皆さんから何かちょっと聞いてみたいご質問とか要望ありましたら教えてもらったらと思います。

【女性】 単純に私の興味というか、現在松山市役所で女性職員が何人いて、そのうち管理職にあたる方が何人ぐらいおられるんですか。それをちょっと知りたいと思ひまして。

【市長】 私からお答えできるのが、女性の登用はすすめていきたいと思っています。ただ、女性の分母が少ないんです。分母といいますか女性の数自体が少ないです。今、特に若い職員で男女、私の印象でいいますと女性のほうが多く受けてきているかなと職員試験には。15年前くらいからガラス張りの採用制度になって、どこから見ていただいてもきれいな採用制度なんですけども、世の中は男女の比率が半々ですからできるだけ女性の登用を進めていきたい、管理職への女性の登用を進めていきたいんですけども、やっぱり以前は女性職員になられても子育てのこととかが、まだ時代的に整備されていなかったのも、結婚したらやめるとか、お子さんできたらやめるっていうことで、女性職員で残っている方が少ないです。もちろん女性で管理職になっている方もこれまでおいでますし、これを伸ばしていきたいとは思いますが、ただ逆に女性だからといって早く上げるというのもちょっと逆差別みたいなところもありますので、その辺はよく

考えながら進めていかなければならないと思っています。男性・女性、世の中には半分ずつでありますから、女性の意見を生かすというのはすごく大事なことだと思いますので、その点はしっかりと頭に入れながら進めていきたいと思っています。

【男性】 苦言になるかもわかりませんが、今日実は市民部の吉野部長にお会いするの初めてです。市民参画まちづくり課で昨年7月ころから本格的に広報委員会制度の見直しに伴いまして、色んな説明を受けております。実は今月も総会がございまして、そのときにも感じたんですが、半年あたりにわたりまして、今までは広報委員会制度は総合政策部の広報課が管轄しておられましたね。今回、市民参画まちづくり課に移行するわけですが、何か感じる点がややちょっと上目線というか、もうちょっと市民とのコンセンサスをとるためには、以前広報課がやっていたようないいところは横の並びで引き継いでいただいて、押しつけるような説明ではなくて、わかりやすい説明をしていただかないと、この半年間で感じた点としては、ちょっと頭ごなしに来てるお話が強く受けましたので、その辺を心していただけたらと思います。

【市民部長】 すみません。市民部の吉野です。それは大変申しわけございません。今まで市から住民に広報委員制度を委嘱をして、色んな市の事業を委託という形でしていただいていたところから、総合政策部広報課で所管をしておりました。来年度から市民部の市民参画まちづくり課がお受けして、これは市民の方々がいろいろ自分たちで考えた色んなことをまちづくりを主体にやっていったことで、下から上がっていくといいますか市民にさせていただきたいと。ですから委嘱するとかお願いするじゃなくて、同じようなお金はお渡しするにしても、例えば委託するのではなくて支援するといいますか、交付金になりますかまだ最終決定はしておりませんが支援して、自分たちでその使い道も含めてやっていただくということでやり方を変えるように考えております。それでその説明が、この1年間で今まで65年続いてきた広報委員制度をなくして、新しい制度にしていくということで、早急にというか期間がなかったということで、組織としての気分的な焦りがどうしても押しつけ的な、上から目線に感じてしまうのではないかと感じてしまうんですけども、決して私どもとしてはそんなつもりはなくて、あくまで住民の人が主体にやっていただくということでお願いしているつもりではありますが、身を正してもう一度皆さんにお願いするという姿勢は変わっておりませんので、そのあたりをご理解していただけたらと思います。

【男性】 来年度に向かって新しい準備を着々と進めておりますので、お

そらく市民参画まちづくり課が管轄になろうかと思いますが、ぜひ全職員の方にまちのみんなとコンセンサスがうまくとれるようにひとつ指導してください。お願いいたします。

【市民部長】 了解いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 いいご意見をいただきました。今のご意見いただくことによって、また職員一層気が引き締まると思います。ありがとうございます。今の行政は絶対に市民の皆さんにご理解をいただくことを大事にしなければ、市民協働のまちづくりというんですけども、例え話です。行政のタイヤと民間とか地元のタイヤがあるとしたら、民間の方だけが一生懸命タイヤを回したとしてもそんな車は同じところをグルグル回るだけ。逆に行政が一生懸命タイヤを回したとしてもそんな車は同じところをグルグル回るだけ。行政と地元、行政と民間の方の両輪がちゃんと回ってこそ物ごとはきちっと前向いて進むという話を何遍もしているところです。今の野志市政になって市民への説明を疎かにするのは絶対に許されないことでありますので、今いいご意見をいただきましたので、また一層徹底を図っていきたいと思います。いいご意見をいただきまして、ありがとうございます。前回のタウンミーティングで出た意見を思い出しましたので、私から説明をさせていただきます。その後、皆さんからもしご意見がなければ残り3人の説明をさせていただきたいと思いますが、前回のタウンミーティングで瀬戸内バスのバス停を増やしてほしいという要望が出されました。これをどのように動いていったかという話ですけども、皆さん御存じのように日浦地区には2種類の乗合バスが運行をしております。一つが伊予鉄バスによる生活路線バスで1日2往復の運行、そしてもう一つが瀬戸内バスによります今治～松山の都市間高速バスで1日11往復運行をしております。前回のタウンミーティングでは瀬戸内バスのバス停を増やしてほしいというご要望をいただきました。早速、瀬戸内バスに対しましてバス停を増設してくださいという相談をいたしました。お答えをいただいたのは現在の路線は今治・大三島と松山を結ぶ都市間路線で両区間をより早く結びつけることを目指している。現時点ではバス停を増設する考えはないんだと。過去にも溝辺地区でバス停を新設する要望もあったんだがお断りをしている。現在、旧玉川町内でのバスの停留所が2カ所であるのに対して日浦地区には4カ所も停留所を設けるなど、日浦地区への配慮をしているのでこれ以上の要望を受けることはできないというお答えでございましたので実現には至りませんでした。じゃあ、バスのことについてはどんなことを松山市はしているのかというと、平成22年11月から地域、バス事業者、行政、市役所が一体になって日浦地区の交通を

考えるワークショップをこれまで6回やっています。これまでこのワークショップでいただいたご意見を踏まえまして、使いやすい生活バス路線の実現に向けまして平成24年の4月から、これまで朝夕の1往復であった伊予鉄バスを、買い物や通院時間に合わせて日中の2往復にダイヤ変更をしたんですけども、残念ながら利用は増えていない状況です。平成24年の7月に調査をしたんですが、伊予鉄バスの利用状況、日浦行きは1日に0.8人の乗車、1便に対しては0.4人の乗車。市駅行きは1日に0.8人の乗車、1便に直すとやっぱり0.4人の乗車という形です。残念ながら利用は増えていないと。松山市としてはバス路線を存続させることに向けて赤字額の一部を補助している状況ですけども、存続するためには地域の皆さんの積極的な利用が必要になりますので、ぜひバスをご利用いただけたらと思います。

【司会】 先ほどご質問いただいていた、松山市の職員でどれぐらい女性の職員がいるのかという表を見つけましたので。

【市長】 1級から8級まで書いていますけども1級が若い、8級がベテランだと思ってください。消防とかさまざま職種ありますけど、一般行政職でいうと男性が1,384人、女性が383人、21.7パーセントという形になりますね。女性の割合は21.7パーセント。ご覧のように若い職員だと93人と83人で女性の割合47.2パーセントですが、年齢が上がるにしたがって少なくなってくる。これは今までの出産、結婚すると退職をするというのが、先ほど申し上げたとおり影響が大きかったのかなと思っています。そのような状況です。

【男性】 高齢クラブの世話をさせていただいております。この地域の山間地域の現状といいますか、皆さんもご想像はいくと思いますけれども、日本全国今逆三角形の人口動態になって、年金を受ける人はたくさん増える、払う人は少ないと。農村も同じです。農村はそれのもう一歩先を行つとると思います。私、高齢クラブの世話をしよりまして、65歳以上が法律上は高齢者ということになっておりますけれども、もうこの地域は60から70代の方は若者で、もう超高齢化の団体になっております。今日も2、3人の人と話しましたが、高齢クラブも風前の灯じゃなと言われましたが、確かにそうであると思います。それとイコールで結ばれると思うんですが、この地域も山間地域で今までは自給自足程度の農業を続けておりましたけれども、だんだんと不便な地域は休耕田が増えて、サルとかイノシシ、鹿の被害が増えて農業も難しくなっております。そして今度の皆さんよく御存じだと思いますけれども、TPP交渉があれだけマスコミで報道され、特に日本の農業の将来について、ほとんどの農家の人

がどうなるんじゃないかと。まともにいったら米なんか700%の関税が今かかるとるんですね。100円やったら700%いうたら7倍ですから、そんだけの高いお米は外国から700%の関税で調整をして、そして日本の農業を守っておった。それが今の地域の年寄りには諦めることもできるかも知れませんが、若い農業後継者は農業を今までも継ぐ人が非常に少なかったが、それ以上に不安定な感覚になりまして、農地があっても農業をせんということが、今、現にあらわれております。そういう中で私らが思うのは、やはり1億2千万人の人口の食糧ですから、ある程度は自国で自給するのが当然である。あるいは地球規模で貿易することはそれだけ輸送手段をたくさん使うということ。輸送手段の燃料は全部原油。飛行機にしても船にしても原油をたく。今まで以上の原油を消費することは二酸化炭素によって地球はより汚れてそして温暖化を促進すると。一方で温暖化防止の京都議定書ですか。部落も荒れとるところがだんだん増えてきよんですが、そういうところをどういうふうにして今後維持したらよいかろうかと思うんですが、一つの提案ですけれども、いわゆる新聞等では中間管理機構ですか、農地を地主から引き受けてそして耕作希望者に耕作をさすと。これ非常にいい構想だと思うんです。それともう一つは耕作をするときにやはりこのあたりでいえば大きな団地と農村との橋渡しといいますか、団地の人に来て農業体験をすると、その橋渡しを市役所にお問い合わせしたら少しは耕作放棄地も守れる一つの手段かなと思います。

【都市ブランド戦略課長】 都市ブランド戦略課の矢野でございます。耕作放棄地というか休耕田といったものへのご意見でございましたけれども、こちらの地域はいわゆる農振地域の中の農用地区域ではございませんで、そうじゃない区域に含まれております。そんな中でおっしゃられるように、休耕田なりそういったものをできるだけ有効活用しながら農業の活性化を図っていくためには、まずは、国でも松山市でも「人・農地プラン」を作成していただくようなお勧めをいたしております。そういった形態をおっしゃられるようにどのように集約化をしていったら、効率的な農業ができるのかということを住民の皆さんが考えていただいて、そしてそうした計画をつくっていただくことによって、さまざまな支援を受けることができるという制度が現在進められておりますので、そういったことを取り組んでいただけるようお願いをしたらと思っております。これは農林水産課が担当でございますので、いろいろプランの作成にあたってはご相談に乗れると思いますので、何卒よろしくお願ひしたらと思ひます。

【女性】 私は1年半前に子どもが小学校に入学するにあたって、松山市の小学校をいろいろ考えたときに、日浦小中一貫を目指している学校で大

体8人くらいの1クラスのところを見て、本当に素晴らしい教育をしてるなと思って、地域の方々とも色んなことを体験をする中で、本当にいい子たちが育っていて素晴らしいなと思って、思い切って日浦に、借りられるお家があったので越してきたので、長い間こちらに住んでいるわけじゃないので、ちょっと勘違いとかもあるかもしれないんですけども、こちらの日浦地区は本当に美しくて、ただそれがなぜ美しいのかというと、住んでいてわかったことなんですけど、地域の方々がプライドを持って草刈りをされていたりとか、自分の土地だけではなくてやってらっしゃるんです。水道も今まで市内で蛇口ひねったら普通に出てくる、税金払っていたら誰かがしてくれるというのではなくて、当番制をもってご老人の方々が山に登って水をきれいにするために毎日働いたりして、それで保たれている。本当に素晴らしい土地で、ここで子どもを育てられるのは本当に素晴らしいことだなと思ったんですけど、唯一の悩みはやはり周りに子どもがいないこと。子どもの友だちがいないという。日浦小中は市内からバスで通ってくるんですけど、今度の入学もあわせてですけど、100%市内からバスに乗ってやってくるという状態で、私たちが引っ越してきたことで2年生が唯一うちの子どもだけが地元の住民。朝も一人で、中学校に入学した女の子と一緒に歩いて学校は行っているんですけど、そういう状況の中でなぜ子どもがいないのか。でもお盆になると子どもが集まってくるんです。なので私たちここに越してきて初めて若い世代になったんですけど、実はたくさんいらっしゃるようで、市内に住居を借りたりして住まわれているんだなど。個々の事情はわからないんですけども、実際に住んでいて例えば子どもが高校に上がる時、どうしたらいいんだろうという疑問に当たったときに、中学生の先輩のお母様たちに聞いてみたら、大体そのときに母親が子どもを連れて市内に住んで通うか、覚悟を決めて送り迎えをするしかない。バスも朝1便、帰りの便にも乗れるかどうかわからない状態で、私たちの世代の頃のお母さんに聞いたら自転車に通っていたという人もいるぐらいなので、このまま日浦は松山市はそれでいいと思っていらっしゃるのかなっていう。例えば興居島ですけど、今年の

8月から通勤通学のためのフェリー代が補助される決定をされたようなんですけど、日浦地区でもここに住んでいてガソリン代ってばかにならないんですね。私も下に幼稚園の子がいますので通っていますけど、何らかの補助を考えていただけたりとか何かしていただけたら、もう少し本来だったらここに住んでもいいはずの方たちが、子どもを育てている方が日浦の小学校に通わせたりとかしながらここに住めるんじゃないかなと思っています。要望の中には市営住宅を建てていただけたらいいのにと記載したん

ですけど、それはいろいろ予算のこともあるでしょうから難しい話だとは思いますが、どんどん高齢化していくところを本当はいる子どもたちをここに帰すための何かの策を立てていただけないかなと思っています。

【都市政策課長】 先に市営住宅のこと言われたので。おっしゃられるように、なかなか市営住宅を新規に市が土地を買ってやるのは今現在はしておりません。そういうご意見・要望は実はほかの地区でもありました。それじゃどうするかというところで一つ市が検討をしていこうと考えているのが、空き家がありますけれども、空き家の中でも十分利用できる空き家。賃貸で出されているところも当然ある地区もあります。だけどそういった情報を市で検討できないかということで、これについては民間の事業者の方の協力が必要になりますので、市としても今後そういう山間部において空き家を利用活用できるような方法ができるかどうか。そういったことでそこに住んでいただくことを目的に検討したいと考えております。

【生涯学習政策課長】 教育委員会でございます。通学費の補助、簡単にいえばバス代の助成というお話だと思うんですが、今手元にある資料にないのはっきりしたことはお答えできないんですが、中島はあったかなという記憶がございます。かなり中島は遠いということもあって。日浦は今ちょっと手持ちがないので確約は言えませんが、そういう制度に見合うものはないと思いますので、持ち帰らせていただいて研究させていただきたいと思います。教育委員会では日浦小中学校に対して特別な色んな手立てを講じておりますのは、通われているから御存じかと思いますが、小中連携でスムーズな中学校生活を送れるような取り組みをしていることと、これは市でこういう小中連携校という取り組みをしたこともありますので、複式学級。これはクラスの生徒数が単純にいうと8人を切れば隣の学校では2年3年一緒になったりするんですけども、それが1学年7人であったとしても日浦に関しては県にお願いをして先生を加配していただいています。複式学級とならないように小学校は手立てを講じて学校での生活になじんでもらおうとしているところが今の教育委員会の取り組みでございます。また先ほどの件、持ち帰らせていただきます。

【市長】 ちょっと落ち着いているようなので。お三方ご自分の担当を。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課高橋です。保健福祉部では赤ちゃんから高齢者までの保健・福祉・医療関係の業務を担当しております。保健は市民の健康管理ということで保健所が中心になっております。福祉の関係でいいますと、障がい者の方であったり、生活保護であったり、母子家庭であったり、そういう方の福祉関係の業務です。医療は国民健康保険

とか介護保険を担当しております。よろしくお願いいたします。

【生涯学習政策課長】 教育委員会でございます。教育委員会は学校教育、文化財、また青少年教育、そして先ほどもありましたここ公民館などの社会教育という幅広い分野で教育活動の事業・取り組み等をしております。また教育財産といいまして、こういう公民館でありますとか、小学校中学校、松山市立の幼稚園、そういった建物の公共施設の管理もしております。よろしくお願いいたします。

【消防局総務課長】 消防局総務課の中矢と申します。まず消防局ですけれども松山市消防局は1局4消防署、5支署2出張所の体制で、職員数は448名で火災救急などの対応を全力で行っております。ちなみに448名中女性職員は14名でございます、その女性職員も救急隊、消防隊などあらゆるジャンルの職種についております。あと消防団でありますとか、自主防災組織、女性防火クラブ、少年消防クラブ等も消防局で対応しております。また日浦地区の自主防災組織も活発な活動を展開していただいております、11の自主防災組織に今13名の防災士が誕生しております、それぞれ防災士を中心とした訓練をやっていただいております。今現在松山市は防災士の数は1,928名で全国の市区町村で一番防災士の多い都市となっております。それと今日は災害への備え、地震への備えでありますとか、風水害への備えなど防災対策についてのご質問、また危機管理に対してのご質問も私が担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 何か質問ありましたら。どうでしょうか。遠慮なくせつかくの機会なので。

【男性】 前のときにも出ておりました有害鳥獣、今有害鳥獣の委員会も行かせてもらっておるわけですけれども、大変有害鳥獣の被害が順々に拡大していっておると。この10年ほどでサルの被害がまたひどくなったんと、鹿の被害が非常に山のほうは植林したものをサルが引き抜く、鹿が食べるという調子で、これから国、県で電柵等の植え込みをする計画されておるようですが、これをやったとしたら山になるんだらうかという心配されている現状が出ております。ぜひともこの対策、なかなかいろいろ皆さんどことも悩んでおるところですが、これに対する方法を何かいい手立てを打ち出せんもんかと思っておりますので、ぜひともお願いしたいと思っております。

【市長】 わかりました。先ほど前回の対応状況の中で鹿の被害ということも述べさせていただきました。鹿の被害も多いのも重々承知しておりますので、今新たにやりだしたのが、専門家の方がいらっしゃるので愛媛大学と愛媛大学の農学部と連携させていただいて、より対策を強めるように、

また責任体制をはっきりしようということで、今まで農林水産担当の部の中で農林水産課でやってたんですけども、鳥獣対策担当課長をつくりまして、より責任体制をはっきりしてやっていくと。日浦ではイノシシどんなですか、おりますかね。私が就任したのは平成22年度ですが、平成21年度のイノシシの捕獲頭数は257頭、それ掛ける報償金が2万円ですから514万円それに対しては支払っていたんですけど、昨年度の平成24年度でいいますと257頭だったものが833頭捕り1,666万円。約3.3倍となっています。もう予算がないから捕りません、報償金出せませんじゃなくて、できる限り出していきたい。対策を強めていきたいと思っているんですけども、難しいのはイノシシって1回に1頭産んでくれて、例えば年に1回だけ産みますだったら話は簡単なんですけども、そういう状況にはない。全国どこの自治体も苦労しているところなんですけども、なかなか抜本的な対策がないのが悩んでいるところです。またサルのことに対してはモンキードッグといいまして、犬で追いやるのもあるんですけど、難しいのは犬なので飼い主の言うことを聞くんですね。モンキードッグの養成所が現在愛媛県にはないので、モンキードッグの養成所に犬を連れて行って飼い主さんと一緒に訓練期間ずっとそこにおいて要請をしなくちゃいけないという難しさがあるので、モンキードッグについても今研究させていただいているところです。ほんとに皆さんが作物つくって、さあ収穫じゃあいうときに食べられてしもたら、ものすごいたまらん思いをされるのは、私の家も北条の実家で農作物をやっておりますので、老いた父と母がやってるんですけども、気持ちはよくわかりますので、これからも真摯にとらえてできることをやっていきたい、できる限りの対策をしていきたいと思っております。

【男性】 先ほど市長さんが予算のほうをいろいろ考えてくれるということなので、前にも要望があったんですけど、こういう立地条件ですので各町にAEDが欲しいんですね。ないところがあるんです。

【市長】 ここちょうど入って来たときにAED見たんですけど、例えばどのあたりに欲しいですか。

【男性】 家が福見川町で、奥に川の郷町があるんですけど、川の郷町・福見川町で一つと。今現在は川の郷に置いてあるんです。福見川で必要な場合には川の郷まで走って、そして公民館は鍵が閉まっていますから、緊急の場合は蹴破って取って来て、それから使う状況なんですよ。だから近い地域ならいいんですけど、そういう立地条件ですから、できれば各町に予算もありますけど欲しいと。それともう一つ消防局の方も来られとったんで。福見川町で前に婦人防火隊でもらったポンプを使っていますして防火

訓練もしていました。これが傷みまして、お願いしたところ警防課を通じまして直していただいたんですけども、もうポンコツでかなり古いものですから直していただいたけど元の能力はありません。結局、河川からポンプを置いて組み上げる能力が少ないんですよ。だから水と水平に近いところで置くと放水はできるんですけども、そんな状況と能力なものですから、いざいうときにどこまで持つかなど。直していただいてありがたいことで感謝もしとんですけど、30何年前のポンプですから、もしそこまで古くない中古でもいい見合うんがあれば、こういう立地条件で前に火事もありましてそのポンプで延焼も免れております。消防局が今湯山にありますけども、20分ないし30分かかると思いますんで、交通事情もありましたらね。だから初期消火ができる形で、もう一つそういう活用している地域、町に対してはポンプの申請があれば貸し出しでも結構です、貸し出したら提供してもらうのと同じことになりますけども置いていただくような施策が取れんかなと思ひましてお願いします。

【保健福祉政策課】 保健福祉政策課高橋です。まず1点目のAEDの設置ですが、今日手元に資料を持って来ていませんので、持ち帰らせていただいて後で場所等教えていただけたらと思います。

【消防局総務課長】 消防局です。ポンプの問題ですけれども、まず今ご使用のポンプは軽可搬といいまして、昔、女性防火クラブが使ってたポンプで、現在は使用しておりませんのでメンテナンス等は非常に困難になっております。通常の可搬ポンプ等になりますと、かなりの圧力がかかるといふ問題もございますので、ポンプの設置等につきまして持ち帰らせていただいて、設置可能かどうかを検討させていただきます。今現在、湯山の救急出張所がここに一番近いんですけども、万が一、福見川、川の郷で火災があった場合には、湯山救急出張所の救急車に可搬ポンプを積載して出動する体制もっておりますので、そのあたりも踏まえて持ち帰りまして検討させていただいたらと思いますのでよろしくお願ひいたします。

【市長】 そういうご意見を遠慮なく言っていただけたらと思いますので。市役所って決して敷居の高いものではなくて、漢字を分解すると市役所は市民の皆さんの役に立つ所で市役所でなければならないと思っておりますので、どうぞ皆様の敷居を高くなさらずに、いろいろと行っていただけたらと思います。私からちょっとお知らせといたしましうか、福見川という地区の名前が出ましたので、福見川の水道施設についてお知らせをいたします。もう御存じの方も多いと思いますが、平成16年から水源調査を開始しまして、平成19年からは取水堰、導水路、排水管、敷地造成の工事をしてきました。平成23年度は機械室と貯水槽を設置して、平成24

年度にはろ過施設や逆洗水槽の設置を行いました。そして今年度末までには電気計装設備、濁度計、外の柵、舗装を行って施設の試運転をして計器の調整を行った上で、50項目の水質検査をして問題がなければ各ご家庭に新設の管へ切りかえをして完成となります。なお、試運転から各家庭への切りかえ完了までに必要な日数が約4カ月程度となるそうでございます。もう少しというところでございます。あと旧湯山診療所ですが、冒頭でご説明をさせていただきましたけども、駐車場部分については、地元の公共的な行事には使用できる場合もございますので、遠慮なく言っていただいたらと思います。市役所はコールセンターを設けていますので、湯山診療所の駐車場使いたいんやけどって言ってもらったら担当にかわりますけれども、管財課に遠慮なく言っていただいたらと思います。また日浦保育園跡地の利用についてですけれども、旧日浦保育園の跡地は桜と藤の木を残して更地としまして、既に地域の皆さんにゲートボールなどご利用をいただいております。遠慮なくご利用いただけたらと思います。さて、最後に出張所の住民サービス。皆さんからお声をいただきまして、出張所の住民サービスを始めさせていただきました。日浦には200世帯の方、人口約400人でございますけども、河中出張所を設けています。各種証明の発行や申請の受理、市税の収納など143種類の事務を行っているんですけども、機器の回線の都合によって出張所では処理できない事務、印鑑登録とか住基カードの交付など、また支所との取り次ぎ事務、戸籍、住民票、印鑑証明の発行などが一部ありましてご不便かけております。前回タウンミーティングでご意見を受けまして、平成23年の12月から住民票等、宅配サービスを開始しましたので、職員がご自宅まで書類をお届けしています。午後3時までに河中の出張所にお越しいただいた方には即日お渡しをできます。午後3時以降の場合でも翌日の夕刻前までにお届けできるよう運用方法を改善いたしましたので遠慮なく使っていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

お時間となりました。今日は皆さん3連休の中日でございましたけれども、ご出席をいただきましてありがとうございます。必ず1カ月を目途に、今日いただいたご意見を市役所の中で検討させていただいて、このようにさせていただきたいと思いますというのを、地元にお返しいたしますので、また見ていただいて、それで終わりではなくて、市長、市役所の皆さん、私はこう思うんじゃけどどうじゃろかという、こういう会話のキャッチボールができればと思っています。決して市役所は敷居の高いものとお考えにならないで、市民の皆さんの役に立つ所で市役所でありたいと思っておりますので、これからもご理解ご協力をお願い申し上げまして、今日のタ

ウンミーティングを終わりとさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。これからもよろしく願いたします。

— 了 —